

[資料 1] スコラスティサイドの定義

出典：Scholars against the War on Palestine (SWAP)

<chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/https://scholarsagainstawar.org/wp-content/uploads/2024/02/Scholasticide-Definition.pdf>

スコラスティサイド (Scholasticide) とは、オックスフォード大学の教授であり、戦争法の専門家であるパレスチナ人のカルマ・ナブルーシー教授による造語である。彼女は、2009 年のイスラエルによるパレスチナのガザに対する攻撃という状況をふまえてこの用語を概念化した。それと同時に 1948 年のナクバに遡り、1967 年の第三次中東戦争と 1982 年のイスラエルによるレバノン侵攻後に拡大した、パレスチナ人の学者・学生・教育機関に対するイスラエルの植民地主義的攻撃のパターンにも言及している。

この用語は、ラテン語の接頭辞「schola」（学校）と接尾辞「cide」（殺害）を組み合わせたものである。ナブルーシー教授は、パレスチナ人が持つ勉学への伝統的な志向を阻むために行われた「イスラエルによるパレスチナ教育の組織的な破壊」を表現するためにこの用語を使用した。彼女は、このパレスチナ人の勉学への志向は「占領社会において教育が果たす大きな役割と力」を反映するものだと指摘し、思想の自由こそが「可能性を提示し、地平を開く」ものであり、「アパルトヘイトの壁、足かせとなる検問所、そして息苦しい監獄」に対抗するものだとして指摘している。ナブルーシー教授は、「パレスチナの伝統とパレスチナ革命における教育の重要性」を認識しているが、それゆえイスラエルの植民地政策立案者たちは「パレスチナ人の教育発展を容認することはできず、破壊せざるを得ないのだ」と述べる。

2023 年から 2024 年にかけてイスラエルがパレスチナのガザで行っているジェノサイド戦争において、スコラスティサイドは前例のない規模で激化した。ガザにおけるイスラエルの植民地政策は、教育の組織的な破壊の段階から完全な絶滅へとその重点を移したのである。実際、ジェノサイドとスコラスティサイドの間には密接な関係がある。ジェノサイドを初めて定義し、その概念を国際法に組み込む上で重要な役割を果たした、ポーランド系ユダヤ人の先駆的な法学者、ラファエル・ラムキンは、ジェノサイドを「社会秩序の根本的基盤を弱体化させる」試みと捉えていた。ラムキンの考えでは、この試みの鍵となるのは、国民・民族・人種・宗教などの諸集団の文化への攻撃であった。

スコラスティサイドとは、国民・民族・人種・宗教などの諸集団の教育生活の全面的または部分的な組織的破壊を伴う、以下のいずれかの行為を指す。

- 1) 大学や学校の教員、生徒・学生、職員、運営者の殺害や暗殺。

- 2) 大学や学校の教員、生徒・学生、職員、運営者への身体的または精神的危害。
- 3) 大学や学校の教員、生徒・学生、職員、運営者の逮捕、拘留、投獄。
- 4) 大学や学校の教員、生徒・学生、職員、運営者への組織的な嫌がらせ、いじめ、脅迫。
- 5) 教育機関への爆撃や破壊。
- 6) 図書館、文書館、実験室などの教育研究資源、ならびに運動場、運動場、公演会場、食堂、寮などの教育プロセスを支援する施設の破壊および/または略奪。
- 7) 被害を受けた学校や大学の再建に必要な資材の搬入の妨害。
- 8) 新たな教育施設建設の妨害。
- 9) 学校や大学を包囲し、兵舎、兵站基地、作戦本部、武器弾薬庫、拘留・尋問センターとして使用する。
- 10) 教育機関の閉鎖および/または日常業務の妨害。
- 11) 教育機関への侵入。
- 12) 教員、生徒・学生、職員の教育機関へのアクセス制限。
- 13) 未成年被拘禁者を含む政治犯に対する教育の拒否。
- 14) インターネットへのアクセスを妨害し、電力供給を妨害し、書籍や実験器具などの教育用品の自由な持ち込みを阻止すること。
- 15) 査証発給拒否その他の制限により、教員の採用を阻止し、教育機関への入国を拒否すること。
- 16) 海外で教育を受ける可能性のある学生または研究者の居住権を剥奪すること。
- 17) あらゆる形態の学術交流を阻止すること。
- 18) 教育機関への国際的および国内的な資金提供を妨害すること。

これらすべての行為は現在、パレスチナのガザで壊滅的な影響を及ぼしながら実行されている。これらは、占領地における社会秩序の再生を阻害し、居住不可能な状態にするための広範な取り組みの一環として、包括的な民族浄化への道を開くジェノサイド行為の一部である。これらの行為の多くは、長年にわたり、ヨルダン川西岸地区と東エルサレムの教育機関やコミュニティに対して行われてきたものであり、その一部はイスラエル内で暮らすパレスチナ系市民も経験してきたものである。